

第3学年 算数科 指導計画・評価規準

江戸川区立一之江小学校

単元名	学びのとびら			教科書のページ	上 p.2～7
配当時数	1 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要領の内容	第2学年の内容

目標	時数	学習活動
・「もくじ」「授業のページ」「算数マイノートをつくろう」「新しい算数を使った学習の進め方」のページを使って、教科書の使い方や算数科の学び方、問題解決の方法を共有し、子どもたちが自ら教科書を有効に活用して、主体的、対話的で深い学びを実現できるようにする。 上 p.2～7	1	①「もくじ」(5分) 表紙裏～p.1 ・「前の学習」や「後の学習」が示されていることに触れ、算数の学習はこれまでの学習をもとに積み上げられていること、以後の学習へつながることに気づかせる。 - また、p.1 下欄を見て、前学年までに働かせ、成長してきた数学的な見方・考え方を想起させる。 ・表紙裏ページを見て、デジタルコンテンツが設定されていることやその使用方法、使用上の留意点に触れる。 ②「授業のページ」(30分) p.2～3 ・前学年までの学習で解決できる問題について、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実際に遂行することを通して、算数科における学び方や問題解決の方法を認識させる。 ③「算数マイノートをつくろう」(7分) p.4～5 ・「授業のページ」におけるノートの例を参考にしながら、ノートのつくり方を学級で共有する。 ④「新しい算数を使った学習の進め方」(3分) p.6～7 ・教科書の構成や記号の意味について調べたいときには、随時本ページを見るとよいことを伝える。 ・巻末にはオプション教材集「新しい算数 プラス」が設定されていること、その中の「ほじゅうのもんだい」(補充問題)、「ふりかえりコーナー」(知識のふりかえり)、「おもしろもんだいにチャレンジ」(数学の世界での発展)があることを紹介し、適宜活用するとよいことを知らせる。 ※「指導者・保護者のみなさまへ」について これらの記述はいずれも教科書の編集意図に加え、子どもたちに学習習慣（特に家庭での自学自習）を身に付けるためには保護者の理解・協力が必須であると考え掲載したものである。保護者の方々との連携を図りながら、教科書を有効に活用していただきたい。

単元名	1. 九九を見なおそう [かけ算]			教科書のページ	上 p.8～25
配当時数	9 時間	活動時期	4 月中旬～下旬	学習指導要領の内容	A(3)ア(イ)(ウ), イ(ア)内容の取扱い(3)(4)

単元の目標		乗法に関して成り立つ性質やきまりなどの理解を深め、数学的表現を適切に活用して九九の範囲を超える計算の仕方を考える力を養うとともに、乗法の計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の学習に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	乗法に関して成り立つ性質やきまりを理解し、それらを活用して被乗数や乗数が 0 や 10 の乗法計算をすることができる。
	思考・判断・表現	乗法に関して成り立つ性質やきまりに着目し、九九の範囲を超える乗法の計算方法を、図や式を用いて考え、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	九九の範囲を超える乗法の計算方法について、式や図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) かけ算のきまり 上 p.8～19 5 時間			
[プロローグ] 上 p.8	1	①九九を唱えたり、九九の問題を出し合ったり、その答えになるかけ算の式を考えたりする活動を通して、九九の定着を確認するとともに、既習の九九を見なおし理解を深めていくという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・乗数が 1 ずつ増減するときの乗数と積の変化の関係や乗法の交換法則の理解を深める。 上 p.9～11		①乗数と積の関係や交換法則を使って、 7×4 の答えの見つけ方を考える。 ②各々の考えを発表し、他者の考えと比較する。 ③前時で出された考えを整理し、乗数と積の関係や交換法則をまとめる。 ④適用問題に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・乗法の分配法則(被乗数を分解)を理解し、九九の答えを求めることができる。 上 p.12	1	①被乗数を 2 つの数に分けて、 9×7 の答えの求め方を考える。 ②被乗数を分解しても積は変わらないことをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・乗法の分配法則(乗数を分解)を理解し、九九の答えを求めることができる。 上 p.13	1	①乗数を 2 つの数に分けた 9×7 の答えの求め方を考え、説明する。 ②被乗数を分解しても、乗数を分解しても、積は変わらないことをまとめる。	[思判表]発言・記録 [知技]発言・行動観察
・被乗数や乗数が 10 のときの答えを、乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いて考え、説明することができる。 上 p.14	1	①10 の段の答えを、累加の考えや既習のかけ算のきまりを用いて求め、九九表に記入する。 ②被乗数が 10 のときのかけ算の答えの求め方を乗法の性質やきまりを活用して考え、答えを求める。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
[今日の深い学び] ・被乗数が 10 を超える場合の答えを、乗法に関して成り立ちや性質を用いて考え、説明することができる。 上 p.15～19	1	①12×4 の答えのいろいろな求め方を考え、図や式を使って表す。 *デジタルコンテンツ設定有 ②他者の考えを読み取り、図や式に表す。 ③分配法則を用いたり、10 といくつに分けたりすると、10 より大きい数の乗法の答えを求められることをまとめる。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
(2) 0 のかけ算 上 p.20～21 1 時間			
・被乗数や乗数が 0 の場合の式の意味を理解し、計算の答えを求めることができる。 上 p.20～21	1	①問題場面を捉え、被乗数や乗数が 0 の場合になる場合の乗法の式について考える。 ②被乗数や乗数が 0 の場合もかけ算の式に表せること、答えは 0 になることを確認し、まとめる。 ③表を基に、得点のとり方を式に表す。 ④式を基に、得点のとり方を考える。	[思判表]発言・記録 [知技]発言・行動観察
(3) かける数とかけられる数 上 p.22 1 時間			
・ $a \times \square = b$, $\square \times a = b$ の $\square$ にあてはまる数を九九を用いて求めることができる。 上 p.22	1	①被乗数、または乗数が未知数の式で、九九を適用して未知数を求める。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.23～25 2 時間			
・単元の学習の活用を通して事象を数理的に捉え論理的に考察し、問題を解決する。 上 p.23	1	[いかしてみよう] ①九九の答えを活用した模様づくりに取り組む。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り、価値づける。 上 p.24～25	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	上 p.26
配当時数	—	活動時期	4 月下旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 上 p.26	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	2. 時こくと時間のもとめ方を考えよう [時こくと時間のもとめ方]			教科書の ページ	上 p.27～33, 144
配当時数	4 時間	活動時期	4 月下旬	学習指導要 領の内容	C(2)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		秒について知り、時間に関する理解を深めるとともに、数学的表現を適切に用いて時刻や時間の求め方を考える力を養うとともに、それらを日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	秒について知り、他の時間の単位との関係を理解するとともに、時刻や時間を求めることができる。
	思考・判断・表現	時間の単位に着目し、時間を既習の量と統合的に捉えるとともに、図などを用いて時刻や時間の求め方を考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	時刻や時間に関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 時こくと時間のもとめ方 上 p.27～31 2 時間			
[プロローグ] 上 p.27	1	①時刻や時間について、町のような調べの計画をたてる場面を通し、時刻や時間の求め方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ある時刻から一定時間後の時刻や 2 つの時刻の間の時間を求めることができる。 上 p.28～29		①8 時 40 分から 30 分後の時刻や、9 時 50 分から 10 時 10 分までの時間を、文字盤や数直線を手がかりにして求める。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ある時刻から一定時間前の時刻や時間と時間の和を求めることができる。 上 p.30～31	1	①11 時 10 分の 30 分前の時刻を、文字盤や数直線を手がかりにして求める。 ②40 分と 30 分を合わせた時間を、数直線を手がかりにして求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 短い時間 上 p.32 1 時間			
・時間を表す単位「秒」について知り、分と秒の単位関係を理解する。 上 p.32	1	①1 分より短い時間の表し方について考える。 ②時間の単位「秒」や、1 分=60 秒の関係を知る。 ③秒の針の動きに合わせて手を打ったり、目をつぶって 1 分経過したと思ったら手をあげたりする量感を養う活動に取り組む。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.33, 144 1 時間			
・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 上 p.33	1	①「たしかめよう」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.144 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に時刻と時間の求め方についての理解を深める。			

単元名	3. 同じ数ずつ分けるときの計算を考えよう [わり算]			教科書の ページ	上 p.34～46, 145
配当時数	9 時間	活動時期	5 月上旬～中旬	学習指導要 領の内容	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ), イ(ア)(イ)

単元の目標		除法の意味について理解し、九九一回適用の除法計算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、除法の計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	除法が用いられる場合や除法と乗法などとの関係について知り、除法の意味について理解するとともに、除法計算をすることができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、等分除と包含除を除法として統合して捉えるとともに、具体物や図、式を用いて計算の仕方を考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	除法の意味や計算方法について、式や図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や今後の学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 1 人分の数をもとめる計算 上 p.34～38 3 時間			
[プロローグ] 上 p.34 ・ 除法に関する用語、記号を知り、等分除の意味について理解する。 上 p.35～37	1	①p.38 の絵を提示し、等分と不等分について話し合うことを通して、同じ数ずつ分けるときの計算を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ①同じ数ずつ分ける場面であることを捉える。 ②12 個のクッキーを 3 人で等分すると 1 人分は何個になるかを、半具体物を操作して調べる。 *デジタルコンテンツ設定有 ③上記の操作結果を $12 \div 3 = 4$ と式に表すことを知る。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
	1	①適用問題に取り組む。 ②用語「わり算」を知る。	
・ 等分除の場面から、分け方や分けた後の数量の関係を式に表し、答えの見つけ方を考え、説明することができる。 上 p.37～38	1	① $20 \div 5$ の答えを半具体物を使わずに見つける方法を考える。 ② $\square \times 5 = 20$ の式から除数の段の九九を使うと答えが見つけれられることをまとめる。	[思判表]発言・記録 [知技]発言・行動観察
(2) 何人に分けられるかをもとめる計算 上 p.39～43 4 時間			
・ 包含除の場面も除法の式に表されることがや、包含除の意味について理解する。 上 p.39～41	1	①p.39 の絵から、等分除との違いを確認する。 ②12 個のパイを 1 人に 3 個ずつ分けると何人に分けられるかを半具体物を操作して調べる。 *デジタルコンテンツ設定有 ③上記の操作結果を $12 \div 3 = 4$ と除法の式に表すことを理解する。	[知技]発言・行動観察
	1	①用語「わられる数」「わる数」を知る。 ②適用問題に取り組む。	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・ 包含除の場面から、分け方や分けた後の数量の関係を式に表し、答えの見つけ方を考え、説明することができる。 上 p.41～42	1	① $20 \div 5$ の答えを半具体物を使わずに見つける方法を考える。 ② $5 \times \square = 20$ の式から除数の段の九九を使うと答えが見つけられることをまとめる。	[思判表] 発言・記録 [知技] 発言・行動観察
・ 等分除と包含除を、「わり算」として統合的に捉え、除法計算の答えを求めることができる。 上 p.43	1	① $6 \div 2$ の式になる問題をつくる。 ② 等分除と包含除の問題を比べる。	[思判表] 発言・記録 [知技] 発言・行動観察
(3) 0 や 1 のわり算 上 p.44 1 時間			
・ 被除数が 0 の場合や被除数と除数が同じ数値の場合の除法計算ができる。 上 p.44	1	① クッキーを 4 人で分けたときの 1 人分の数を求める場面で、クッキーが 8 個、4 個のときを順に考え、1 個もないときは何個になるかを考える。 ② クッキーが 1 個もないときも $0 \div 4 = 0$ と除法の式に表すことを知る。	[知技] 発言・行動観察
まとめ 上 p.45～46, 145 1 時間			
・ 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り、価値づける。 上 p.45～46	1	① 「たしかめよう」に取り組む。 ② 「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録 [態度] 発言・行動観察
・ 【発展】 巻末 p.145 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に除法の活用についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	上 p.47
配当時数	—	活動時期	5 月中旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・ 既習内容の理解を確認する。 上 p.47	—	① 「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技] 発言・行動観察

単元名	4. 大きい数の筆算を考えよう [たし算とひき算の筆算]			教科書の ページ	上 p.48～57, 146
配当時間	8 時間	活動時期	5 月下旬～ 6 月上旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(2)

単元の目標		3～4 位数の加減法の筆算の仕方を理解しその技能を身に付け、既習の数の見方や筆算の仕方を活用して筆算の仕方を考える力を養うとともに、筆算の仕方をまとめる過程を振り返り、既習と統合的に捉えようとしたり今後の学習に生かそうとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	3～4 位数の加減計算は、2 位数などの基本的な計算を基にしてできていることを理解し、それらの計算をすることができる。
	思考・判断・表現	数の見方に着目し、2～3 位数の場合の筆算の仕方を活用して 3～4 位数の加減法の筆算の仕方を図や式などを用いて考え表現し、筆算の仕方を一般化してまとめている。
	主体的に学習に取り組む態度	3～4 位数の加減法の筆算の仕方を、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 3 けたの数のたし算 上 p.48～50 2 時間			
[プロローグ] 上 p.48	1	①p.48 の式や筆算を提示し、今までに学んできた加減計算について振り返るとともに、新たな課題となる 3～4 位数の加減計算について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 3 位数+3 位数の筆算の仕方を、数の見方や既習の加法筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上 p.49～50		①問題場面を捉え、図を基に式をたてる。 ②既習内容を基に、 $365+472$ の筆算の仕方を考える。 ③筆算の仕方（繰り上がりなし、一の位または十の位で繰り上がりあり）をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・ 3 位数+3 位数の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 上 p.50	1	① $347+178$, $763+459$ の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方（一、十の位で繰り上がりあり、各位で繰り上がりあり）をまとめる。	[知技]発言・行動観察
(2) 3 けたの数のひき算 上 p.51～53 3 時間			
・ 3 位数-3 位数の筆算の仕方を、数の見方や既習の減法筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上 p.51	1	①場面を捉え、図を基に立式について考える。 ②既習内容を基に、 $315-194$ の筆算の仕方を考える。 ③筆算の仕方（繰り下がりなし、一の位または十の位へ繰り下がりあり、一の位及び十の位へ繰り下がりあり）をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・3位数－3位数の筆算（波及的繰り下がりあり）の仕方を、数の見方や既習の減法筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上 p.52～53	1	①402－175の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方（一の位へ波及的繰り下がりあり）をまとめる。 ③練習問題に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・1000－3 位数の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 上 p.53	1	①1000－265の計算の仕方を考える。 ②筆算の仕方をまとめる。	[知技]発言・行動観察
(3) 大きい数の筆算 上 p.54～55 2 時間			
・4 位数を含む加減筆算の仕方を、既習の筆算の仕方を基に考え、統合的にまとめる。 上 p.54	1	①2483＋7156, 7156－2483の計算の仕方を考える。 ②5102±4398の計算の仕方を考える。 ③計算の仕方をまとめる。	[思判表]発言・記録
・4 位数±4 位数の計算の仕方を確実に身につけ、計算することができる。 上 p.55	1	①4 位数±4 位数などの型の計算練習をして、数が大きくなっても加減筆算の仕方は変わらないことをまとめる。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.56～57, 146 1 時間			
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上 p.56～57	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.146 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に加減の筆算についての理解を深める。			

単元名	考える力をのばそう「重なりに注目して」			教科書のページ	上 p.58～59
配当時数	1 時間	活動時期	6 月上旬	学習指導要領の内容	A(2)(7)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・2 つの量の重なる部分に着目する問題を通して、数量の関係を図に表し考える能力を伸ばす。 上 p.58～59	1	①題意を捉える。 ②テープ図の（ ）にあてはまる数字を書いて図を完成させる。 ③図を見て様々な立式をし、答えの求め方を考える。 ④求め方を発表し、検討する。 ⑤2 つの量の重なる部分を求める問題を解く。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	5. 長い長さをはかって表そう [長いものの長さのはかり方と表し方]			教科書の ページ	上 p.60～69
配当時数	7時間	活動時期	6 月中旬～下旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		量の単位や測定について理解し適切に単位を用いて長さを表したり、およその見当を付け計器を適切に選択して測定したりすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して既習の単位を含めた単位の関係を統合的に考える力を養うとともに、身の回りのものの長さを測定した過程を振り返り、量感覚を身に付け、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	長さの単位（キロメートル(km)）や測定の意味を理解し、長さについての豊かな感覚をもつとともに、それらを活用して適切に長さを単位で表したりおよその見当をつけ適切な単位や計器を選択して測定したりすることができる。
	思考・判断・表現	身の回りのものの特徴や任意の単位に着目し、測定の方法や単位の関係について説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	長さについての単位や測定を用いて身の回りのものの長さを測ったり、既習の単位との関係について考えたりしたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 長いものの長さのはかり方 上 p.60～63 3 時間			
[プロローグ] 上 p.60	1	①p.60 の写真を提示し、これまで学習してきた長さの単位や測定を振り返る活動を通して、1mより長いものの測定と表現について理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・長いものやまるいものの長さを測定するには、巻尺が適していることやその使い方を理解し、測定することができる。 上 p.61～63	2	①運動マットの長さを測定するにはどうすればよいかを考える。 ②長いものの長さを測定するには、巻尺が適していることを知り、巻尺の目盛りの読み方を知る。 ③教室の縦と横の長さを巻尺で測定する。 ④長さの見当をつけてからいろいろなものの長さを巻尺で測定する。 ⑤測定対象に応じた計器を選択する。	
(2) 長い長さのたんい 上 p.64～66 1 時間			
・道のりや距離の意味を知り、長さを表す単位「キロメートル (km)」について理解する。 上 p.64～66	1	①「きより」と「道のり」の意味を知り、絵地図を見て距離や道のりを調べる。 ②長い道のりや距離を表す単位「キロメートル (km)」を知る。 ③「ますりんつうしん」を読んで、昔の長さの単位「里」について知り、長さへの興味・関心を高める。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
まとめ 上 p.67～69 3 時間			
・ 数学的活動を通して学習内容の理解を深め,長さについての量感を養う。 上 p.67	2	[いかしてみよう] ①10m の距離を予想し, 巻尺を用いて確認する。 ②1km を歩いてかかった時間や歩数を調べ, その長さを体感する。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・ 学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。 上 p.68～69	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	6. 数をよく見て暗算で計算しよう [暗算]			教科書のページ	上 p.70～73
配当時数	3 時間	活動時期	6 月下旬	学習指導要領の内容	A(2)ア(イ), イ(ア)内容の取扱い(2)

単元の目標		2 位数同士の加減法の暗算の仕方について理解し、計算することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して暗算の仕方を考える力を養うとともに、計算した過程を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の観点別評価規準	知識・技能	被減数が 100 の減法の暗算や 2 位数同士の加減法を暗算で計算することができる。
	思考・判断・表現	数の構成や加減法に関して成り立つ性質に着目して、暗算による計算の仕方を工夫して考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	2 位数同士の加減法を暗算で計算したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 暗算 上 p.70～73 3 時間			
[プロローグ] 上 p.70	1	①p.70 の写真を見て、筆算を用いずに代金やおつりを求める活動を通して、工夫して計算することで筆算を用いずに加減の計算をすることができるようになるという単元の課題を設定する。	
・被減数が 100 の暗算の仕方を、数の構成を基に考え、説明することができる。 上 p.71～72		①100－79 の計算を暗算でする方法を考え、説明する。 ②問題場面を理解し、100－62 の計算などを暗算で行う方法を考え、説明する。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・数の構成を基に、2 位数同士の加減法の暗算の仕方を説明することができる。 上 p.72～73	1	①44＋29 や 52－38 の暗算の仕方を考え、説明する。	[思判表]発言・記録
・2 位数同士の加法や減法の暗算の仕方を理解し、その暗算をすることができる。 上 p.73	1	①2 位数同士の加減法を暗算を用いて計算する。	[知技]発言・行動観察

単元名	7. わり算を考えよう [あまりのあるわり算]			教科書のページ	上 p.74～83, 146
配当時数	7 時間	活動時期	7 月上旬～中旬	学習指導要領の内容	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ), イ(ア)(イ)

単元の目標		わり切れない場合の除法や余りについて理解し、計算することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、除法の意味や計算の仕方を具体物や図、式を用いて表す力を養うとともに、問題場面における数量の関係に着目し、数学的に処理した過程を振り返り、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	わり切れない場合の除法の計算や余りと除数の大小関係について理解し、それらを活用して数量の関係を捉えることができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、わり切れる場合とわり切れない場合の除法を統合して捉え、除法の意味や計算に成り立つ性質について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	日常生活の問題を解決した過程や得られた結果を吟味したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) あまりのあるわり算 上 p.74～80 5 時間			
[プロローグ] 上 p.74	1	①p.74 のイラストを見て、既習の余りのないわり算の計算についての話し合いを通して、わり切れない除法の意味や計算の仕方を考えるという単元の課題を設定する。	
・ 除数と商が 1 位数の除法で、わり切れない場合の計算の仕方を理解する。 上 p.75～76		① $14 \div 3$ の答えの見つけ方を考える。 ②計算結果を式に表すと $14 \div 3 = 4$ 余り 2 となることを知る。 ③わり算には、わり切れるときとわり切れないときがあること知る。	[知技] 発言・行動観察 [思判表] 発言・記録
・ 余りと除数の関係を理解する。 上 p.77	1	① $13 \div 4$ の計算について余りと除数の関係を調べる。	[知技] 発言・行動観察
・ 等分除の計算についても、包含除の計算の方法を基に考え、説明することができる。 上 p.78	1	①題意を捉え、 $16 \div 3$ と立式し、答えの見つけ方を考える。 ②文章題に取り組む。	[思判表] 発言・記録
・ わり切れない場合の除法計算について、答えの確かめ方を理解する。 上 p.79	1	①わり切れない場合を含む除法の答えの確かめ方を考える。	[知技] 発言・行動観察
・ わり切れない場合を含む、除法の計算ができる。 上 p.80	1	①計算練習と答えの確かめをする。 * デジタルコンテンツ設定有	[知技] 発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) あまりを考える問題 上 p.81 1 時間			
・余りの捉え方について理解を深める。 上 p.81	1	①題意を捉え、 $23 \div 4$ と立式し、計算して答えを求める。 ②計算では5余り3だが、答えを5としてよいか話し合う。 ③答えは商+1になることをまとめる。 ④題意を捉え、 $30 \div 4$ と立式し、計算して答えを求める。 ⑤計算では7余り2だが、商をそのまま答えとしてよいか、それとも商+1 とすべきかを話し合う。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 上 p.82～83, 146 1 時間			
・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 上 p.82～83	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.146 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に余りと規則性についての理解を深める。			

単元名	8. 10000 より大きい数を調べよう [大きい数のしくみ]			教科書の ページ	上 p.84～97, 147
配当時数	10 時間	活動時期	9 月上旬～中旬	学習指導要 領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(1)

単元の目標		万の単位や1億までの整数について知り、十進位取り記数法や4桁区切りによる命数法（万進法）を基に、大きな数の読み方や計算の仕方を考えるとともに、整数の表し方について数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	万の単位や1億までの整数を知り、十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、10 倍、100 倍、1000 倍、 $1/10$ にした数や数の相対的な大きさを不等号を用いて表す方法を理解している。
	思考・判断・表現	整数の仕組みや表し方に着目し、万の単位を用いた整数の仕組みについて類推して考え、大きな数の大小の比べ方や表し方を統合的に捉え説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	1 億までの数の仕組みや表し方について、統合的に捉えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 数の表し方 上 p.84～93 7 時間			
[プロローグ] 上 p.84	1	①p.84 の写真を提示し、身の回りで見かける大きい数を読んだり表したりする活動や既習の大きい数についての自由な話し合いなどを通して、「10000」より大きい数について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・一万の位までの数の読み方や書き方、構成や命数法について、数の見方や既習の整数の表し方をもとに考え、理解する。 上 p.85～86		①絵を見て、入場券の枚数を数える。 ②24153 の数構成と命数法をまとめる。 ③紙の数を数字で表す。 ④「一万の位」を知る。 * デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・十万、百万、千万の数の仕組みと千万の位までの読み方や書き方、数の構成について理解する。 上 p.87～88	1	①一万を 10 こ集めた数を「十万」といい、「100000」と書くことを知る。 ②一万～千万の数の表し方の仕組みを考え、それぞれ 10 こ分の関係になっていることをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①一万の位の左から順に「十万の位、百万の位、千万の位」ということを知る。 ②適用問題に取り組む。	
・数の相対的な大きさについて、1000 を基に考え、説明することができる。 上 p.89	1	①1000 を 23 こ集めた数はいくつかを考える。 ②34000 は 1000 を何こ集めた数かを考える。	[思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・ 1 万より大きい数の大小や順序, 「1 億」についてを知る。 上 p.90～91	1	①「数直線」を知る。 ②数直線に表された数を読んだり, 数を数直線に表したりする。 ③千万を 10 こ集めた数を「一億」といい, 「100000000」と表すことを知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 数や式の相等関係や大小関係の表し方を理解することができる。 上 p.92	1	①数の構成に基づく, 大きい数の計算の仕方を考える。 ②□にあてはまる, 「=, >, <」の記号を書く。 ③「等号」「不等号」の用語と意味についてまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 数の構成を多面的に捉え, 数の見方を豊かにする。 上 p.93	1	①16000 について, いろいろな表し方を考え, 言葉や式で表す。 ④式に表された, 他者の考えを読み取り, 表現する。	[思判表]発言・記録
(2) 10 倍した数と 10 でわった数 上 p.94～95 2 時間			
・ 整数を 10 倍した数の表し方を理解する。 上 p.94～95	1	①25 の 10 倍の数を考える。 ②もとの数と 10 倍した数の並び方を比べる。 ③25 の 10 倍の数を考える。	[知技]発言・行動観察
・ 整数を 100 倍, 1000 倍した数, 10 でわった数の表し方を理解する。 上 p.95	1	①25 の 10 倍を 10 倍した数を考える。 ②25 の 10 倍を 10 倍し, さらに 10 倍した数を考える ③25 の 1000 倍した数を考える。 ④もとの数を 10 倍, 100 倍, 1000 倍した数の位の上がり方についてまとめる。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.96～97, 147 1 時間			
・ 学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。 上 p.96～97	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.147 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み, 単元の学習内容を基に一億までの数についての理解を深める。			

単元名	9. 大きい数のかけ算のしかたを考えよう [かけ算の筆算(1)]			教科書の ページ	上 p.98～112, 147
配当時数	11 時間	活動時期	9 月下旬～ 10 月上旬	学習指導要 領の内容	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(2)(4)

単元の目標		2 位数や 3 位数に 1 位数をかける乗法の計算の仕方について理解し、確実に計算することや成り立つ性質について理解することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、乗法の成り立つ性質を活用したり、計算を確かめたりするとともに、計算した過程を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2～3 位数×1 位数の乗法の筆算の仕方を理解し、それらを活用して計算することができる。
	思考・判断・表現	数の構成や既習の乗法計算に着目し、2～3 位数×1 位数の筆算について考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	2～3 位数×1 位数の筆算について、乗法九九などの基本的な計算を基に考えたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 何十、何百のかけ算 上 p.98～101 2 時間			
[プロローグ] 上 p.98 ・何十、何百に 1 位数をかける計算の仕方について、10 や 100 を基に考え、説明することができる。 上 p.99～101	1	①九九表の空欄の求め方を考える活動を通して、2～3 位数に 1 位数をかける乗法の計算の仕方や性質を理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
		①20×3 の計算の仕方を考える。 ②その式を立てたわけを説明する。 ③200×3 の計算の仕方を考える。	
	1	①2×3, 20×3, 200×3 の式を比較する。 ②被乗数が 10 倍になると、答えも 10 倍になっていることをまとめる。 ③被乗数が 100 倍になると答えも 100 倍になることをまとめる。	
(2) 2 けたの数に 1 けたの数をかける計算 上 p.101～106 5 時間			
・2 位数×1 位数 (部分積がみな 1 桁)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 上 p.101～103	1	①問題場面を捉え、立式する。 ②23×3 の計算の仕方を、アレイ図や模擬貨幣を使ったり数操作をしたりして考え、答えを求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①23×3 の筆算の仕方をまとめる。 ②適用問題に取り組む。	
・2 位数×1 位数 (一の位の数との部分積が 2 桁)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 上 p.104	1	①1 辺 16cm の正方形の周長を求める式を立てる。 ②16×4 の筆算の仕方を考える。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・2位数×1位数（十の位の数との部分積が2桁、及び部分積がみな2桁）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 上 p.105	1	① 42×3 , 58×3 の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方をまとめる。	[知技]発言・行動観察
・2位数×1位数（部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 上 p.106	1	① 29×4 , 76×4 の筆算の仕方を考える。	[知技]発言・行動観察
(3) 3けたの数に1けたの数をかける計算 上 p.107～110 3時間			
・3位数×1位数（部分積がみな1桁）の筆算の仕方について、2位数×1位数の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上 p.107～108	1	①問題場面を捉え、立式する。 ② 312×3 の計算の仕方を考える。 ③ 312×3 の筆算の仕方を考える。 ④筆算の仕方をまとめる。	[思判表]発言・記録
・3位数×1位数（部分積がみな2桁、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算の仕方について、既習の乗法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上 p.109	1	① 386×2 の筆算の仕方を考える。 ② 937×4 の筆算の仕方を考える。	[思判表]発言・記録
・3つの数の乗法が1つの式に表せることを知り、乗法の結合法則について理解する。 上 p.110	1	①問題場面を捉え、代金の求め方について考える。 ②場面を3つの数の乗法の式で表す。 ③3つの数の乗法の結合法則をまとめる。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.111～112, 147 1時間			
・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 上 p.111～112	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.147 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に2～3位数×1位数のかけ算についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？			教科書の ページ	上 p.113
配当時数	—	活動時期	10 月上旬	学習指導要 領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 上 p.113	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	10. わり算や分数を考えよう [大きい数のわり算, 分数とわり算]			教科書の ページ	上 p.114～117
配当時間	4 時間	活動時期	10 月中旬	学習指導要 領の内容	A(4)ア(オ), イ(ア)(イ) (6)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除数の計算や分数と除法の関係について理解し、計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して計算方法や問題場面における分数の意味について考える力を養うとともに、既習の計算方法や分数を除法としてみた過程を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	・ 簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について説明している。 ・ 分数で表されている場面を適切に捉え、除法の計算を用いて答えを求めることができる。
	思考・判断・表現	・ 既習の計算の仕方やテープ図などを用いて、数の構成に着目して簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について考え、説明している。 ・ 等分することや分数の意味に着目して、分数で表された数を除法を用いて計算することを考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	・ 簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方を、既習の除法計算などを基に考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。 ・ 分数と除法の関係やもとの数と分数の関係を考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 大きい数のわり算 上 p.114～115 2 時間 ※本小単元の内容は、「スパイラルのため重複させる内容」であり、次学年で確実な習得をねらう。			
・ 60÷3 の計算の仕方を、既習の乗法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。 上 p.114	1	①60÷3 の計算の仕方を、60 を 10 の 6 こ分と捉えて既習の計算を使って考える。 ②問題演習に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 69÷3 の計算の仕方を、既習の乗法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。 上 p.115	1	①69÷3 の計算の仕方を、69 を 60 と 9 に分けて考える。 ②問題演習に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 分数とわり算 上 p.116～117 2 時間			
・ 分数で表された数を除法の計算を用いて求めることができる。 上 p.116	1	①80cm の 1/4 の長さの求め方を考える。 ②分数で表された数を除法を用いて表すことができることを知る。	[知技]発言・行動観察
・ もとの大きさが異なるものの等分した数について理解する。 上 p.117	1	①84cm や 88cm の 1/4 の長さを求める。 ②もとの長さの 1/4 の長さが異なる理由を考える。 ③もとの大きさと分数の関係をまとめる。	[知技]発言・行動観察

単元名	どんな計算になるのかな？			教科書の ページ	上 p.118～119
配当時数	1 時間	活動時期	10 月中旬	学習指導要 領の内容	A(2)(3)(4)

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
加減乗除法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。 上 p.118～119	1	①問題文を読み，それぞれどんな式を立てればよいかを考えて解決する。 ②絵を見て作問し，解決する。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察

単元名	11. まるい形を調べよう [円と球]			教科書のページ	上 p.120～132
配当時数	8 時間	活動時期	10 月下旬	学習指導要領の内容	B(1)ア(ウ), イ(ア)内容の取扱い(6)

単元の目標		円や球の構成する要素や性質について理解しコンパスを用いた作図や長さを測り取ることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して構成の仕方や身の回りのものを円や球として考える力を養うとともに、図形をかいたり確かめたりする活動を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の観点別評価規準	知識・技能	円の中心や半径、直径について理解し、円に関連して球の直径などを理解し、それらを活用してコンパスで円をかいたり、等しい長さを測り取ったりすることができる。
	思考・判断・表現	円や球を構成する要素に着目し、構成の仕方について考えたり、身の回りのものに図形の性質がどのように活用されているかを考えたり、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	円や既習の図形の作図を基に模様をかくなどの活動を通して、身の回りから円や球を見つけたり、図形のもつ美しさに関心をもったりしたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 円 上 p.120～127 5 時間		★他教科との関連: 英語	
[プロローグ] 上 p.120 ・ 中心、半径の用語を知り、円の構成や性質について理解する。 上 p.121～123	1	①p.120 の写真から、身の回りにある図形について説明する。 ②p.121 のイラストを提示し、玉入れゲームにおける並び方について話し合いをしながら、並ぶ位置によってかごからの距離が違うことに気づかせ、円の構成や性質の仕方を捉えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
		①かごからの距離が同じになる並び方を考え、並び方を線で表す。 ②かごからの距離が同じになるように並ぶとき、人数が増えればきれいなまるい形になることを捉える。	
	1	①p.153 の付録を使って、いろいろな大きさの円をかく。 ②1 つの点から長さが等しくなるようにかいたまるい形を「円」ということ、及び「中心」「半径」の意味を知る。 ③1 つの円に半径となる線をたくさんひいて、半径は無数にあることや、どれも同じ長さであることを確認する。 ④身の回りから、円の形をしたものを探す。	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・直径の意味や直径と半径の関係を理解する。 上 p.123～124	1	①円の中心の見つけ方を考える。 ②「直径」の意味を知る。 ③直径の長さは半径の長さの2倍であることをまとめる。 ④円周上の2点を結ぶ直線のうち、最長のものが直径であることを確認する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・コンパスを使って、円をかくことができる。 上 p.125	1	①円をかくにはコンパスを使うと便利であることを知る。 ②コンパスの使い方に注意して、指定された半径の円をかく。 ③コンパスを使って、模様づくりに取り組む。 ＊デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察
・コンパスは等しい長さを測り取ったり移したりすることができること理解する。 上 p.126～127	1	①直線と折れ線の長さを比較する方法を考える。 ②コンパスは等しい長さを測り取るのに使えることを捉え、長さの比較に用いる。 ③p.127の絵を使って、指定された大きさの円をかいて宝の場所を探す活動に取り組む。	[知技]発言・行動観察
(2) 球 上 p.128～129 1時間			
・球の特徴について理解する。 上 p.128～129	1	①ボールなどの具体物を真上や真横から観察する。 ②球の特徴を調べる。 ＊デジタルコンテンツ設定有 ③「球」や球の「中心」、「半径」、「直径」について知る。 ④球の形をしたものの直径の長さをはかる。 ⑤「算数のおはなし」を読んで、「直径」「半径」の漢字の意味を知り、用語の意味の理解を深める。	[知技]発言・行動観察
まとめ 上 p.130～132 2時間			
・学習内容を適用して問題を解決する。 上 p.130	1	[いかしてみよう] ①コンパスで円をかく活動を通して模様をかき、こまを作る。 ②円と球の関係を具体物を用いて考える。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 上 p.131～132	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	かたちであそぼう「タングラム」			教科書の ページ	上 p.134
配当時数	—	活動時期	—	学習指導要 領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
基本図形を組み合わせていろいろな形を作る活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを味わう。 上 p.134	—	①正方形を7分割した基本図形を使って、他の基本図形やいろいろな具体物の形を作る。 *デジタルコンテンツ設定有	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	12. 数の表し方やしくみを調べよう [小数]			教科書のページ	下 p.2～20
配当時数	12 時間	活動時期	11 月上旬～中旬	学習指導要領の内容	A(5)ア(7)(イ), イ(7)

単元の目標		小数の意味や表し方について理解し、加法や減法の計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して小数の表し方や仕組み、計算の仕方を考えるとともに、身の回りにある小数で表された数の意味について振り返り、日常生活に生かそうとしている。
単元の観点別評価規準	知識・技能	端数部分の大きさを表す際に小数を用いることや小数の仕組みについて理解し、それらを活用して 1/10 の位までの小数の加減の計算をすることができる。
	思考・判断・表現	数の表現や数のまとまりに着目し、小数は整数の十進位取り記数法を拡張したものとして捉え、小数を含む数の大小関係や加減の計算方法について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	小数の表し方や意味や加減計算の仕方について、図や式などの数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 1 より小さい数の表し方 下 p.2～7 4 時間			
[プロローグ] 下 p.2	1	①p.2 の写真を提示し、身の回りにある数の並びが同じで小数点のあるものとなないものの数表示を話題として取り上げ、自由な話し合いなどを通して、小数や小数の表し方を理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・整数で表せない端数部分の大きさの表し方を、既習の単位の学習に着目して考え、説明することができる。 下 p.3～5		①水を 1L のますではかったときの 1L に満たないはしたのかさの表し方を考える。 ②1L を 10 等分した 1 こ分のかさを「0.1L」ということを知る。 ③はしたのかさはその 3 こ分で 0.3L で、合わせて 1.3L になることを知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①前時の学習を振り返りながら小数を使ってはしたの大きさを表す。 ②用語「小数」「小数点」「整数」を知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・長さ (cm) の端数部分の表し方を水のかさを小数を用いて表したことに基いて考え、説明することができる。 下 p.6	1	①8cm7mm のテープの長さを cm 単位で表すことを考える。 ②長さや重さの量について、小数を使った単名数での表し方を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・数直線上の 1 目盛りがいくつを表すのかを基に、数直線上の小数を表す目盛りを読んだり小数を数直線に表したりする方法を考え、説明することができる。 下 p.7	1	①数直線に表された小数を読んだり、数直線に小数を表したりする。 ②小数の相対的な大きさについて考える。	[思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 小数のしくみ 下 p.8～9 2 時間			
・用語「小数第一位」を知り、 小数の位取りの仕組みや数の 構成を理解する。 下 p.8	1	①147.2 の構成について考える。 ②用語「小数第一位」を知る。 ③位取り板と数カードを使って、147.2 の構成を捉える。	[知技]発言・行動観察
・小数の大小関係について理 解する。 下 p.9	1	①数直線を使って、小数の大小を考える。 ②小数の大小を比較する時には、整数の 場合と同じように、位の数字に着目す ればよいことをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(3) 小数のしくみとたし算、ひき算 下 p.10～12 3 時間			
・小数の表し方と仕組みに着 目し、小数第一位同士の小数 の加法の計算方法を考え、説 明することができる。 下 p.10	1	①場面を捉え、立式について考える。 ② $0.3+0.2$ の計算の仕方を、0.1 を単位と して $3+2$ の計算に帰着して考える。 ③既習の $30+20$ と $0.3+0.2$ を統合的に捉 える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・小数の表し方と仕組みに着 目し、小数第一位同士や 1 から小数をひく減法計算の 仕方を考え、説明することが できる。 下 p.11	1	①場面を捉え、立式について考える。 ②前時の学習を使って、 $0.5-0.2$ や $1-0.4$ の計算の仕方を考える。 ③前時と同様に、 $0.5-0.2$ の計算を、0.1 を単位として $5-2$ の計算に帰着して 考える。 ④前時の加法の学習と本時を、0.1 を単位 として整数の加減計算に帰着して考 えるという見方・考え方で統合的に捉 える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・小数第一位までの小数の加 減法の筆算の仕方を理解し、 それらの計算をすることが できる。 下 p.12	1	① $2.5+1.8$ の筆算の仕方を考える。 ②小数第一位までの小数の加法の筆算の 仕方をまとめる。 ③ $4.3-1.8$ の筆算の仕方を考える。 ④ $1.2+2.8$, $4.2-3.5$, $5-1.4$ の筆算の仕 方を考える。 *デジタルコンテンツ設定有	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(4) 小数のいろいろな見方 下 p.13～17 1 時間			
[今日の深い学び] ・小数の表現や構成に着目し、 小数についていろいろな見 方や表し方を考え、表現す ることができる。 下 p.13～17	1	①2.8 を数直線に表し、いろいろな見方や 表し方を考える。 ②他者の考えを読み取り、図や式や数直 線で表す。 ③2.8 は数の構成や、相対的な大きさを基 にするといろいろな表し方ができるこ とをまとめる。	[思判表]発言・記録
まとめ 下 p.18～20 2 時間			
・単元の学習の活用を通して 事象を数理的に捉え論理的 に考察し、問題を解決する。 下 p.18	1	[いかしてみよう] ①九九の答えを活用した模様づくりに取 り組む。	[思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り，価値づける。 下 p.19～20	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	下 p.21
配当時数	—	活動時期	11 月中旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 下 p.21	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	13. 重さをはかって表そう [重さのたんいとはかり方]			教科書の ページ	下 p.22～34, 125
配当時数	9 時間	活動時期	11 月中旬～ 下旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(7)

単元の目標		重さの単位と測定について理解し、適切に重さの測定や表し方の選択ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して身の回りのものの重さや重さの単位を統合的に考える力を養うとともに、重さの表し方について考えた過程を振り返り、量感覚を身に付け、日常生活に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	重さについて、単位や単位間の関係を理解し、およその見当をつけ、適切な計器を選んで測定することができる。
	思考・判断・表現	身の回りのものの重さやその単位に着目し、量感や単位の間関係を統合的に考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りにあるものの重さやそれらを数値化することのよさ、普遍単位の必要性を振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 重さのくらべ方 下 p.22～25 3 時間		★他教科との関連:理科	
[プロローグ] 下 p.22	1	①p.22 の写真を提示し、物の大きさと重さ、重さの保存性、つり合い（重い方に傾くことなど）についての話し合い活動を通して、重さの比較や測定について理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	1	①いろいろな文房具などの重さの比べ方を考える。 ②どちらがどれだけ重いかを調べる方法を考える。	
・身の回りのものの重さを道具やもとにする大きさを定め、比較する方法を考え、説明することができる。 下 p.23～24	1	①積み木や一円玉など、適当な任意単位を使って比べ、表にまとめる。 ②1 円玉と自作天びんを使って、いろいろなものの重さを測定する。	[知技]発言・行動観察
・単位の必要性を認め、重さを表す単位「グラム (g)」を知る。 下 p.25	1	①重さの単位「グラム(g)」を知る。 ②測定前におよその見当をつける。	[知技]発言・行動観察
(2) はかりの使い方 下 p.26～32 5 時間			
・重さを測定する計器としてはかりがあることを知り、目盛りの読み方を理解する。 下 p.26～27	1	①重さとはかりの針の動き方の関係を捉える。 * デジタルコンテンツ設定有 ②はかりを使う際の留意事項をまとめる。 ③秤量 1kg のはかりの目盛りの読み方を調べて、目盛りを読む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・重さを表す単位「キログラム (kg)」, 1kg=1000g の関係を理解する。 下 p.28～29	1	①重さの単位「キログラム(kg)」, 1kg=1000g の関係を理解する。 ②秤量 2kg のはかりの目盛りを読む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・ 正味, 風袋, 全体の重さの関係を知り, 重さの加法性や測定の方法の工夫について理解する。 下 p.30	1	①荷物の重さと箱の重さ, 全体の重さの関係を線分図を用いて理解し, 計算して求める。 ②いろいろなものを使って, 1kg をつくる活動に取り組む。	[知技]発言・行動観察
・ 重い物の重さを表す単位「トン(t)」, 1 t =1000kg の関係を理解する。 下 p.31	1	①重さの単位「トン(t)」, 1t=1000kg の関係を理解する。 ②6000kg, 3000kg, 2100kg を t を使って表す。	[知技]発言・行動観察
・ 長さや重さ, 体積などの既習の単位について, それぞれの量の単位の関係を基に考え, 接頭語と単位の関係について説明することができる。 下 p.32	1	①既習の単位を振り返り, 接頭語「キロ(k)」 「ミリ(m)」 に着目する。 ②接頭語キロ(k)が 1000 倍を意味していることや 1mL のように接頭語ミリ(m)がつく単位で表される量を 1000 倍するとミリ(m)がとれて 1L となることを捉える。 ③単位の関係を活用した単位換算に取り組む。	[思判表]発言・記録
まとめ 下 p.33~34, 125 1 時間			
・ 学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。 下 p.33~34	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】 巻末 p.125 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み, 単元の学習内容を基に重さについての見方や考え方を広げる。			

単元名	おぼえているかな？		教科書のページ	下 p.35
配当時数	—	活動時期	11 月下旬	学習指導要領の内容

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・ 既習内容の理解を確認する。 下 p.35	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	14. 分数を使った大きさの表し方を調べよう [分数]			教科書の ページ	下 p.36～49, 126
配当時数	10 時間	活動時期	12 月上旬～ 中旬	学習指導要 領の内容	A(6)ア(7)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(5)

単元の目標		分数の意味や分数を用いた大きさの表し方を理解し、それらを用いて分数の加法及び減法の計算をすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して分数での端数の表し方や小数との関係を考える力を養うとともに、分数の仕組みを用いて考えた過程を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	端数部分を表す数や大きさを表す数としての分数やその表し方を理解し、それらを活用して分数の加法及び減法の計算や $1/10$ の位までの小数と分母が 10 の分数の関係について理解している。
	思考・判断・表現	分数は単位量を n 等分した 1 こ分を任意の単位としていることに着目して、数の大きさを比べたり、計算したりする方法を考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	分数を用いることで、整数では表すことのできない等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表せるようになることを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 等分した長さやかさの表し方 下 p.36～41 3 時間			
[プロローグ] 下 p.36	1	①p.36 の図を提示し、もとの長さの $1/3$ の長さが異なるのはなぜなのかを考え、分数の学習の振り返りを行うと同時に、等分したときの大きさの表し方や分数が表す大きさについての考え方を理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 1m を 3 等分した 1 こ分の大きさを分数で $1/3m$ と表すことを理解する。 下 p.37～38		①1m のテープを 3 等分した 1 こ分の長さの表し方を考える。 ②1m のテープを 3 等分した 1 こ分の長さを 1m の「三分の一」といい、「 $1/3m$ 」と書くことを知る。 ③ $1/3m$ は、その 3 こ分で 1m になる長さであることを確認する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 分数を用いた長さの表し方について、単位分数の考え方を基に考え、説明することができる。 下 p.38～39	1	①1m のテープを 3 等分した 2 こ分の長さの表し方を考える。 ②その長さを 1m の「三分の二」といい、「 $2/3m$ 」と書くことを知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 「分数」「分母」「分子」の意味を知り、液量についても長さと同様に端数部分の大きさを分数で表せることを考え、説明することができる。 下 p.40～41	1	①1L を 5 等分した 2 こ分のかさの表し方を考える。 ②1L を 4 等分した 1 こ分、6 等分した 4 こ分のかさの表し方を考える。 ③「分数」「分母」「分子」の意味を知る。 ④「ますりんつうしん」を読む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(2) 分数のしくみ 下 p.42～45 4 時間			
・ 分数を数直線に表し、分数の大きさの比較や 1m を n 等分したものの n 分は 1 になることを理解する。 下 p.42	1	①数直線を用いて、 $4/5\text{m}$ と $3/5\text{m}$ の長さの比較を行う。 ② $4/5\text{m}$ と $3/5\text{m}$ の長さを比べ、違いは 1 目盛り何こ分かを考える。 ③ $5/5\text{m}$ は 1m と同じ大きさであることを確認する。 ④1m を 6 等分した数直線から長さをそれぞれ求める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 単位分数の何こ分という表し方を基に、1 よりも大きい分数の表し方を考え、説明することができる。 下 p.43	1	① $1/5\text{m}$ の 6 こ分、7 こ分、…の長さは何 m か考える。 ② $10/5\text{m}$ は 2m と同じ大きさであることを確認する。	[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・ $3/4\text{m}$ と、もとの長さの $3/4$ の違いについて理解する。 下 p.44	1	①図を見て、色を塗った部分の長さが 2m のいくつ分の長さなのかを考える。 ②1m を何等分しているかに着目し、図の色を塗った部分の長さを分数で表す。 ③ $3/4\text{m}$ とは、もとの長さ 1m の $3/4$ の長さであることを確認する。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 分母が 10 の分数と $1/10$ の位までの小数の関係について理解する。 下 p.45	1	① $1/10$ を単位とした数直線を基に分数の大きさや、分数と小数の関係について考え、 $1/10=0.1$ であることを理解する。 ②小数第一位を「 $1/10$ の位」ともいうことを知る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(3) 分数のしくみとたし算、ひき算 下 p.46～47 2 時間			
・ 分数の表し方と仕組みに着目し、同分母の分数の加法及び減法の計算方法を考え、説明することができる。 下 p.46～47	1	①分数 ($3/10$ と $2/10$) についても、たし算ができるか考える。 ②小数に置き換えてもできることを確かめ、 $1/10$ の何こ分で考えればよいことをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①分数 ($4/5$ と $2/5$) においても、ひき算ができるか考える。 ②前時の学習を生かして、 $1/5$ の何こ分で考えれば整数と同じように計算できることをまとめる。	
まとめ 下 p.48～49, 126 1 時間			
・ 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 下 p.48～49	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・ 【発展】巻末 p.126 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に分数で表される大きさについて理解を深める。			

単元名	15. □を使って場面を式に表そう [□を使った式]			教科書の ページ	下 p.50～57, 127
配当時数	4 時間	活動時期	1 月中旬	学習指導要 領の内容	A(7)ア(7), イ(7)

単元の目標		未知の数量を表す□などの記号を用いて数量の関係を式に表すことについて理解し、数量の関係を式に表したり、□などの記号に数を当てはめて調べたりすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して数量の関係を簡潔に表したり、式の意味を読み取ったりする力を養うとともに、数量の関係を表す式を考察した過程を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	数量の関係を表す式に未知の数量を表す□などの記号を用いることを理解し、それらを活用して問題場面を式や図に表したり、式の意味を読み取って問題場面を考え、□に当てはまる数の調べ方を理解したりしている。
	思考・判断・表現	数量の関係や問題場面に着目し、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて読み取ったりして未知の数量を表す□を用いた式について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	未知の数量を□などの記号を用いて表すことで、問題場面を式や図に表せることのよさを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) □を使った式 下 p.50～55 3 時間			
[プロローグ] 下 p.50	1	①p.50 のコマ絵を提示し、各問題場面を式に表すことを通して、これまでの学習を振り返りながら問題場面を式に表すという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
	1	①お話にしたがって、未知数□を用いて、たし算の式に表す。 ②表した式について、線分図を使ってお話の場面と対応させ、確認する。 ③□にあてはまる数の求め方を、代入法や図を使って考える。	
・未知数があっても□を用いるとお話の通りに式で表せることやその□にあてはまる数の調べ方を理解する。 下 p.51～54	1	①お話にしたがって、未知数□を用いて、ひき算やかけ算の式に表す。 ②表した式について、図や数直線を使ってお話の場面と対応させ、確認する。 ③□にあてはまる数の求め方を、代入法や図を使って考える。	[思判表]発言・記録
・□を用いた式から問題場面をつくる方法を、前時に□を用いた式をつくった経験を基に考え、説明することができる。 下 p.55	1	①イラストを見て、問題場面を捉える。 ②それぞれの式で、□が何を表しているのかを考え、式にしたがってお話をつくる。 ③できたお話の場面を、式と対応させて確認する。	

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
まとめ 下 p.56～57, 127 1 時間			
・学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。 下 p.56～57	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.127 の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み, 単元の学習内容を基に未知の数量と逆思考について理解を深める。			

単元名	16. かけ算の筆算を考えよう [かけ算の筆算(2)]			教科書の ページ	下 p.58～68, 128
配当時数	10 時間	活動時期	1 月中旬～ 2 月上旬	学習指導要 領の内容	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(2)

単元の目標		2 位数や 3 位数に 2 位数をかける乗法の計算について理解し、確実に計算することや成り立つ性質について理解することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、乗法の成り立つ性質を活用したり、計算を確かめたりするとともに、計算した過程を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2～3 位数×1 位数の乗法の筆算の仕方を活用して、2～3 位数×2 位数の乗法の筆算を計算することができる。
	思考・判断・表現	数の構成や既習の 2～3 位数×1 位数の筆算の仕方に着目し、2～3 位数×2 位数の筆算について考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	2～3 位数×2 位数の筆算について、既習の筆算の計算方法を基に考えられたことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 何十をかける計算 下 p.58～61 2 時間			
[プロローグ] 下 p.58	1	①p.58 の表を提示し、既習の 2～3 位数×1 位数の計算や未習の 2～3 位数×2 位数の計算が表のどこに当たるのかを考える活動を通して、未習の 2～3 位数×2 位数の計算方法について理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・ 1 位数×何十の計算の仕方について、図や数直線をも基に考え、説明することができる。 下 p.59～60		①問題場面を捉え、立式する。 ② 5×30 の計算の仕方を考える。 ③かける数が 10 倍になると、答えも 10 倍になることをまとめる。 ④1 位数×何十の計算をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 式と答えを比較し、乗法を 10 倍にすると答えも 10 倍になることを理解し、その計算をすることができる。 下 p.60～61	1	① 12×30 の計算について考える。 ②2 位数×何十の計算をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 2 けたの数をかける計算 下 p.61～65 6 時間			
・ 2 位数×2 位数 (部分積がみな 2 桁で繰り上がりなし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 下 p.61～63	1	①問題場面を捉え、立式する。 ② 12×23 の計算の仕方を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①筆算の仕方をまとめる。 ②適用問題に取り組む。	
・ 2 位数×2 位数 (部分積が 3 桁で繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 下 p.63	1	① 58×46 の筆算の仕方を考える。 ②適用問題に取り組む。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・2位数×2位数（乗数の末尾に0がある）の簡便な計算の仕方や1位数×2位数の計算の仕方を乗法の性質を基に考え、説明することができる。 下 p.64	1	①86×30の簡便な筆算の方法を考える。 ②3×46の筆算と46×3の筆算を比べてどちらが計算しやすいか考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・3位数×2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 下 p.65	1	①587×34の筆算の仕方を、既習の筆算を基に考える。 ②桁数が増えても、既習の筆算と同じように計算できることをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
	1	①乗法の筆算を練習する	
(3) 暗算 下 p.66 1時間			
・簡単な場合の2位数×1位数の暗算の仕方を理解し、その暗算ができる。 下 p.66	1	①23×3, 230×3, 23×30の暗算の仕方を考える。 ②25×4=100を基にして、25×8の暗算の仕方を考える。 ③8×25の暗算の仕方を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 下 p.67～68, 128 1時間			
・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 下 p.67～68	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察
・【発展】巻末 p.128の「おもしろもんだいにチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に乗数の桁数が大きくなるときのかけ算の筆算について理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	下 p.69
配当時数	—	活動時期	2月上旬	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・既習内容の理解を確認する。 下 p. 69	—	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]発言・行動観察

単元名	倍の計算			教科書のページ	下 p.70～73
配当時数	3 時間	活動時期	2 月中旬	学習指導要領の内容	A(3)(4)(7)

単元の目標		基準量や倍の意味について理解し、それぞれ答えを求めることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して演算決定や数量の関係を考える力を養うとともに、二つの数量の関係を考察した過程を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	倍の意味を理解し、問題場面に応じてテープ図や□を用いた式などを用いながら、答えを求めることができる。
	思考・判断・表現	基準量や数量の関係に着目し、倍の意味や計算方法について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	基準量や倍について考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 倍の計算 下 p.70～73 3 時間			
・ある量の何倍かにあたる数を求めるときに、乗法を用いることを理解する。 下 p.70～71	1	①自分の「あた」や「つか」の長さを調べる。 ②15 cmの4倍の長さの求め方を考える。 ③ある量の何倍かにあたる数を求めるときには、乗法を使うことをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ある数がもとにする大きさの何倍かを求めるときに、除法が用いられることを理解する。 下 p.72	1	①40m が 5m の何倍かを求める方法を考える。 ②何倍かを求めるには除法を使えばよいことをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・基準量を求める場合には、□を用いて乗法の式に表し、除法を用いて□を求めればよいことを理解する。 下 p.73	1	①数量の関係をテープ図や数直線に表して考え、□を用いた乗法の式に表す。 ②□にあてはまる数を求めるには、除法を用いることをおさえる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

単元名	17. 三角形を調べよう [三角形と角]			教科書のページ	下 p.74～89
配当時数	8 時間	活動時期	2 月下旬～ 3 月上旬	学習指導要領の内容	B(1)ア(ア)(イ), イ(ア)内容の取扱い(6)

単元の目標		作図などを通して二等辺三角形や正三角形の関係や角について理解し、図形の特徴を捉えることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して図形を構成する要素や構成の仕方を考える力を養うとともに、図形の要素に着目し、図形を考察した過程を振り返り、学習に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	作図などの活動を通して、二等辺三角形や正三角形、角の大きさについて知り、それらを活用して基本的な図形の性質や構成する要素を理解している。
	思考・判断・表現	図形を構成する要素に着目し、図形の構成の仕方を考えるとともに、基本的な図形の性質について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	辺の長さや角の大きさなどの図形を構成する要素に着目し、学習を通して身の回りのものの形を図形として捉えたことを振り返り、図形の敷き詰めなどの作図に関心を持ったり、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 二等辺三角形と正三角形 下 p.74～83 4 時間		★他教科との関連:英語	
[プロローグ] 下 p.74	1	①p.74 の写真を提示し、身の回りの三角形に着目させるとともに、円周上に点を 12 個等間隔に打った図で、円周上の点や中心を直線で結んでいろいろな三角形をつくる活動を通して、三角形を構成する要素に着目し二等辺三角形や正三角形について理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 15 分程度)	
・ 辺の長さに着目して三角形を弁別し、二等辺三角形や正三角形の意味について理解する。 下 p.75～76		①円周上の等間隔の点を結んで、いろいろな三角形をつくり、できた三角形を辺の長さに着目して弁別する。 ②「二等辺三角形」「正三角形」の特徴を理解し、探したり選んだりする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 二等辺三角形の作図の仕方を理解し、作図することができる。 下 p.77	1	①底辺が 3cm で 2 つの辺が 4cm の二等辺三角形のかき方を考える。 ②コンパスと定規を用いて、二等辺三角形を作図する。 ③二等辺三角形の作図練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・ 正三角形の作図の仕方を、二等辺三角形やの作図の仕方を基に考え、説明することができる。 下 p.78	1	①3 辺が 4cm の正三角形のかき方を考える。 ②コンパスと定規を用いて、正三角形を作図する。 ③正三角形の作図練習をする。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
[今日の深い学び] ・二等辺三角形や正三角形の作図の仕方を, 円の性質を用いて考え, 説明することができる。 下 p.79～83	1	①ノートにかいた半径 3 cmの円を用いて, 中心と円周上に 2 つの点を結びいろいろな三角形をかき, どれも二等辺三角形になることを確認する。 *デジタルコンテンツ設定有 ②円周上のどの 2 点をとっても二等辺三角形になる理由を考え, 説明する。 ③正三角形をかくには, 円周上の 2 点をどのようにとればよいか考える。 ④円の性質を使うと, 二等辺三角形や正三角形がかけるところをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) 三角形と角 下 p.84～87 2 時間			
・角の意味や角の大きさの相等や大小を調べることができる。 下 p.84～85	1	①三角定規で, 直角や他の鋭角を紙に写し取り, 一番とがっている角を探す。 ②「角」および角の大きさの意味を知る。 ③紙に写し取った三角定規の角を用いて, 角の大きさを比べる。 ④角の大きさは辺の長さに依存しないことをまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・二等辺三角形や正三角形の角の特徴を理解する。 下 p.86～87	1	①二等辺三角形と正三角形のを紙にかいて切り抜き, それぞれの 3 つの角の大きさを調べる。 ②二等辺三角形, 正三角形の角の性質をまとめる。 ③三角定規 2 枚で三角形を構成しながら, 二等辺三角形と正三角形の性質の理解を深める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 下 p.87～89 2 時間			
・学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。 下 p.87	1	[いかしてみよう] ①巻末の折り込みにある, 二等辺三角形や正三角形を並べて敷き詰める。 ②コンパスや定規を用いて模様をつくる。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。 下 p.88～89	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	18. わかりやすく整理して表そう [ぼうグラフと表]			教科書の ページ	下 p.90～104
配当時間	10 時間	活動時期	3 月上旬～中旬	学習指導要 領の内容	D(1)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(8)

単元の目標		日常の事象について、観点別にデータを分類整理することについて理解し、表や棒グラフに表したり読んだりすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して表やグラフから見出したことを考察する力を養うとともに、データを整理し考察した過程を振り返り、今後の学習や日常生活に生かそうとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	日時や場所などの観点別にデータを分類整理することを理解し、それらを活用して表やグラフから項目間の関係や集団のもつ全体的な特徴を読み取ったりすることができる。
	思考・判断・表現	目的に応じたデータを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察したり、見出したことを分かりやすく表したりすることについて考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	データを分類整理したり、それらをもとに身の回りの事情について考察したりした過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) 整理のしかたとぼうグラフ 下 p.90～96 5 時間			
[プロローグ] 下 p.90	1	①p.90 のイラストを提示し、けがの種類や場所などについての自由な話し合いなどを通して、身の回りの事象を解決するために、データを見やすく整理し考察するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
・資料を分類整理する方法や整理した結果を表にまとめる方法を理解する。 下 p.91～92	1	①p.91 の吹き出しを基に、けがの種類別の人数を「正」の字を使って整理する。 ②結果を表に表す。 ③「合計」の意味を知る。	[知技]発言・行動観察 [態度]発言・行動観察
・資料を棒グラフに表すと、数量の大小が分かりやすいことや、棒グラフの読み取り方を理解する。 下 p.93～94	1	①p.133 の記録を基に、けがの場所と人数を表にまとめる。 ②「その他」の意味を知る。	
・資料を棒グラフに表すと、数量の大小が分かりやすいことや、棒グラフの読み取り方を理解する。 下 p.93～94	1	①「棒グラフ」について理解する。 ②表と棒グラフを比較し、どんなことがわかりやすくなったかを考える。 ③棒グラフの長さに着目して、棒グラフの特徴をまとめる。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・棒グラフのかき方を理解し、表から棒グラフにかき表すことができる。 下 p.94～95	1	①けがの場所と人数を整理した表を見て、棒グラフに表す。 ②項目のとり方、1 目盛りの大きさなどの順に従ってグラフをかく。 *デジタルコンテンツ設定有 ③かいた棒グラフから読み取れることを考える。	[知技]発言・行動観察

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
・データを表に分類整理し、棒グラフに表したり、倍の考えを用いてデータの分析をしたりすることができる。 下 p.96	1	①p.133 のデータを正の字を用いて調べ、表に表す。 ②前時に学習した棒グラフのかき方をもとに、グラフにかき表す。 ③棒グラフからデータ同士の関係を倍を用いて表す。 ④整理したデータを用いて、どんなポスターをつくることができるか考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(2) ぼうグラフの 1 めもりの大きさ 下 p.97～100 2 時間			
・数量が横軸に表されている棒グラフを読み取ったり、1 めもりの取り方について理解したりすることができる。 下 p.97～98	1	①横軸に数量がかかされているグラフの読み方や昇順に並べない場合があることを知る。 ②1 目盛りの表す大きさが異なる場合の読み取り方を知る。 ③表やグラフ用紙から、1 目盛りをいくつにすればよいかを考え、グラフに表す。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
・同じデータからかいた、1 目盛りの表す大きさが異なる 3 つの棒グラフを比較し、棒グラフの読み取りや特徴を理解する。 下 p.99～100	1	①1 目盛りの表す大きさの異なる 3 つのグラフを比較する。 ②棒の長さ等に注目しながら、棒グラフの読み取りをする。 ③棒を組み合わせたグラフを読み取る。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
(3) 表のくふう 下 p.101 1 時間			
・一次元表を組み合わせた簡単な二次元表を読むことができる。 下 p.101	1	①3 か月のけがの種類と人数をまとめた 3 つの一次元表を読む。 ②3 つの表をまとめた二次元表に数を書き入れたあと、この表を読む。 ③二次元表の有用性を考える。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録
まとめ 下 p.102～104 2 時間			
・単元の学習の活用を通して事象を数理的に捉え論理的に考察し、問題を解決する。 下 p.102	1	[いかしてみよう] ①二次元表からデータを読み取る。 ②二次元表からけが調べのデータを棒グラフに表す。	[思判表]発言・記録
・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 下 p.103～104	1	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	そろばん			教科書のページ	下 p.105～107
配当時数	2 時間	活動時期	3 月中旬	学習指導要領の内容	A(8)ア(7)(イ), イ(7)

単元の目標		そろばんによる数の表し方について理解しそろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して大きな数や小数の仕組みを考える力を養うとともに、計算の過程を振り返り、学習に生かそうとしている。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	そろばんを用いた加減計算の仕方を理解し、それらを活用して簡単な加減計算をすることができる。
	思考・判断・表現	そろばんの仕組みや十進位取り記数法の仕組みに着目し、数の入れ方や払い方を考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	そろばんの仕組みと十進数の仕組みを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

目標	時数	学習活動	評価の観点と方法
(1) そろばん 下 p.105～107 2 時間			
・そろばんの各部分の名称を知り、そろばんにおかれた数の読み方や数の入れ方、払い方を理解し、加減法の基本的な計算をすることができる。 下 p.105～107	2	* デジタルコンテンツ設定有 ①そろばんの各部分の名称を知り、そろばんに数を入れたり、払ったりする練習をする。 ②$64+23$, $70+48$ の計算をして、たし算の基本運珠の仕方を知る。 ③$64-23$, $70-48$ の計算をして、ひき算の基本運珠の仕方を知る。 ④$1.2+0.4$ や $2.6-0.3$, 4 万+3 万, 6 万-2 万などの計算に取り組み、小数や大きな数でもそろばんでは計算できることを知る。 ⑤「ますりんつうしん」を読み、そろばんの歴史について知り、そろばんへの興味・関心を高める。	[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察

単元名	考える力をのばそう「間の数に注目して」			教科書のページ	下 p.108～109
配当時数	1 時間	活動時期	3 月中旬	学習指導要領の内容	A(3)(7)

目標	時数	学習活動		評価の観点と方法	
直線や円周上に等間隔に配置されたものの数と間の数との関係に着目して、図を用いて問題内容を整理し、考察する力を伸ばす。 下 p.108～109	1	①場面を捉え、解決の仕方を考える。 ②図を見て、間数が木の数より 1 小さいことに気づき、答えを求める。 ③場面を捉え、解決の仕方を考える。 ④図を見て立式し、間数と木の数が等しいことに気づき、答えを求める。		[知技]発言・行動観察 [思判表]発言・記録	

単元名	3 年のふくしゅう			教科書のページ	下 p.110～114
配当時数	3 時間	活動時期	3 月中旬	学習指導要領の内容	A～D

目標	時数	学習活動		評価の観点と方法	
既習内容の理解を確認する。 下 p.110～114	3	①問題に取り組み、解決する。		[知技]発言・行動観察	

単元名	かたちであそぼう「ペントミノ」			教科書のページ	下 p.116
配当時数	—	活動時期	—	学習指導要領の内容	—

目標	時数	学習活動		評価の観点と方法	
いくつかの図形を組み合わせて正方形や長方形を作る活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを味わう。 下 p.116	—	①正方形を 5 こつなげてできた 12 種類の形からいくつかを選んで、正方形や長方形を作る。 *デジタルコンテンツ設定有		[思判表]発言・記録 [態度]発言・行動観察	